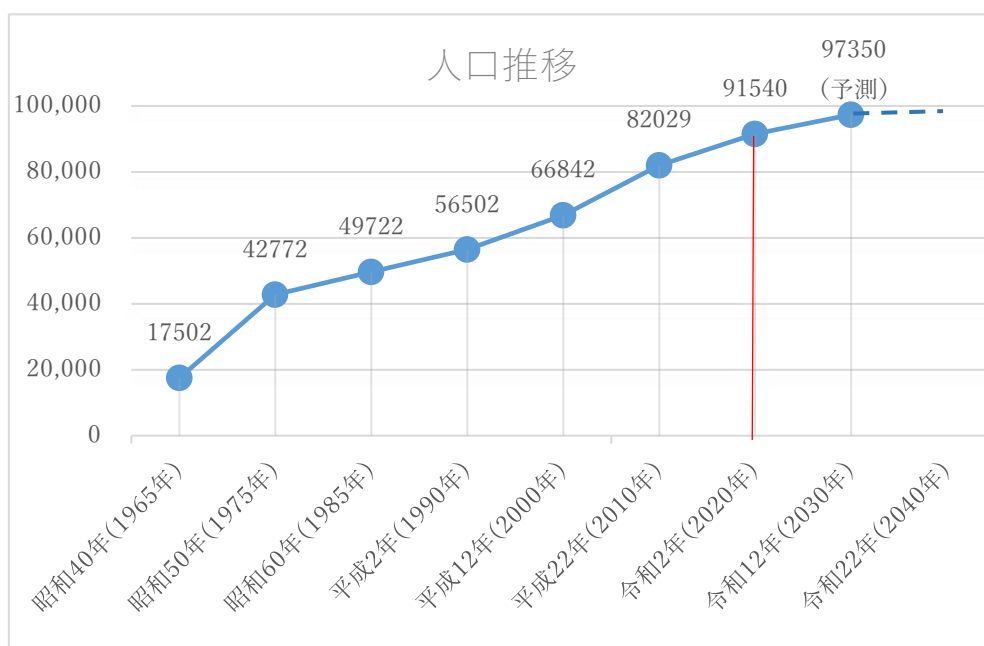
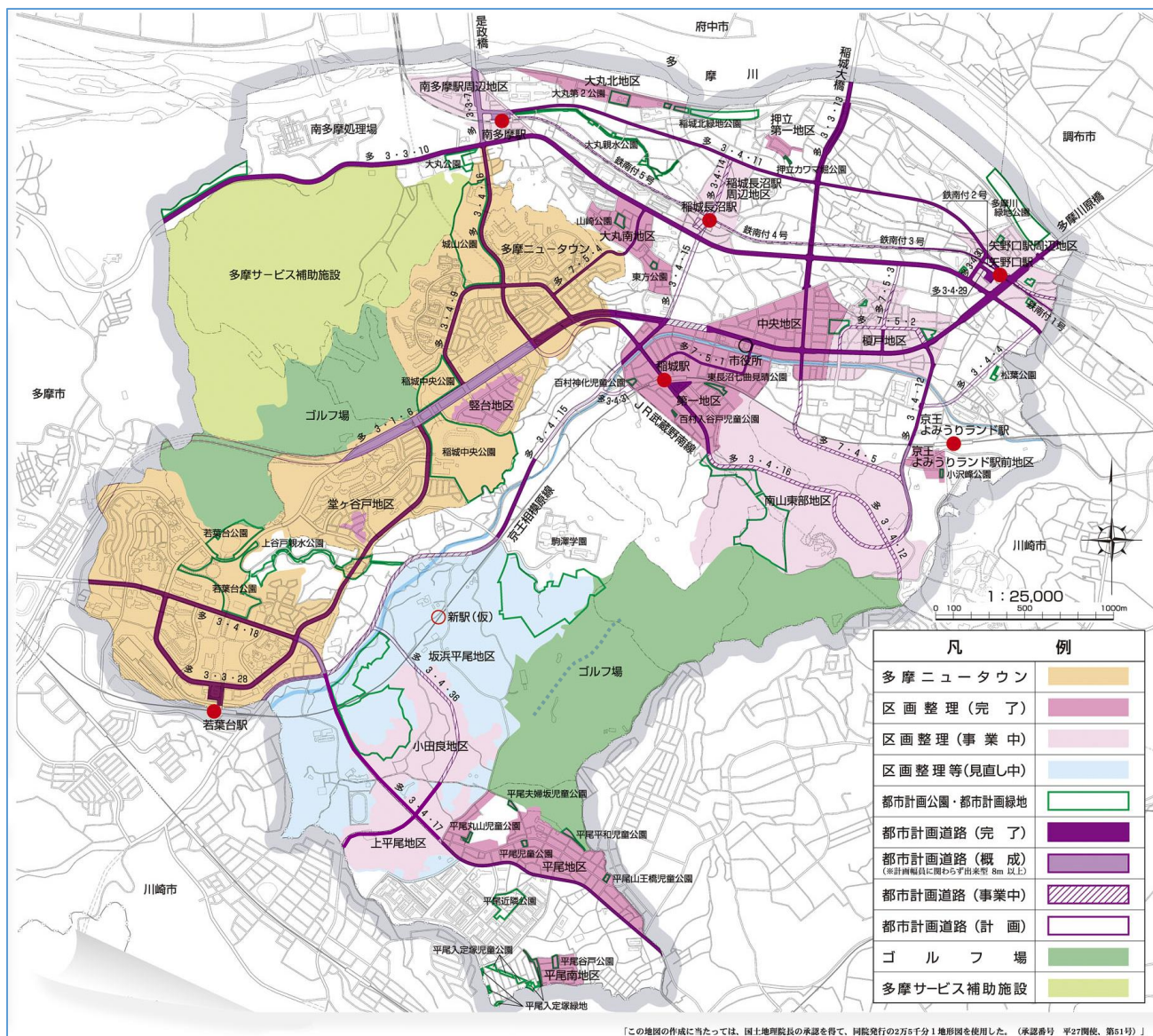
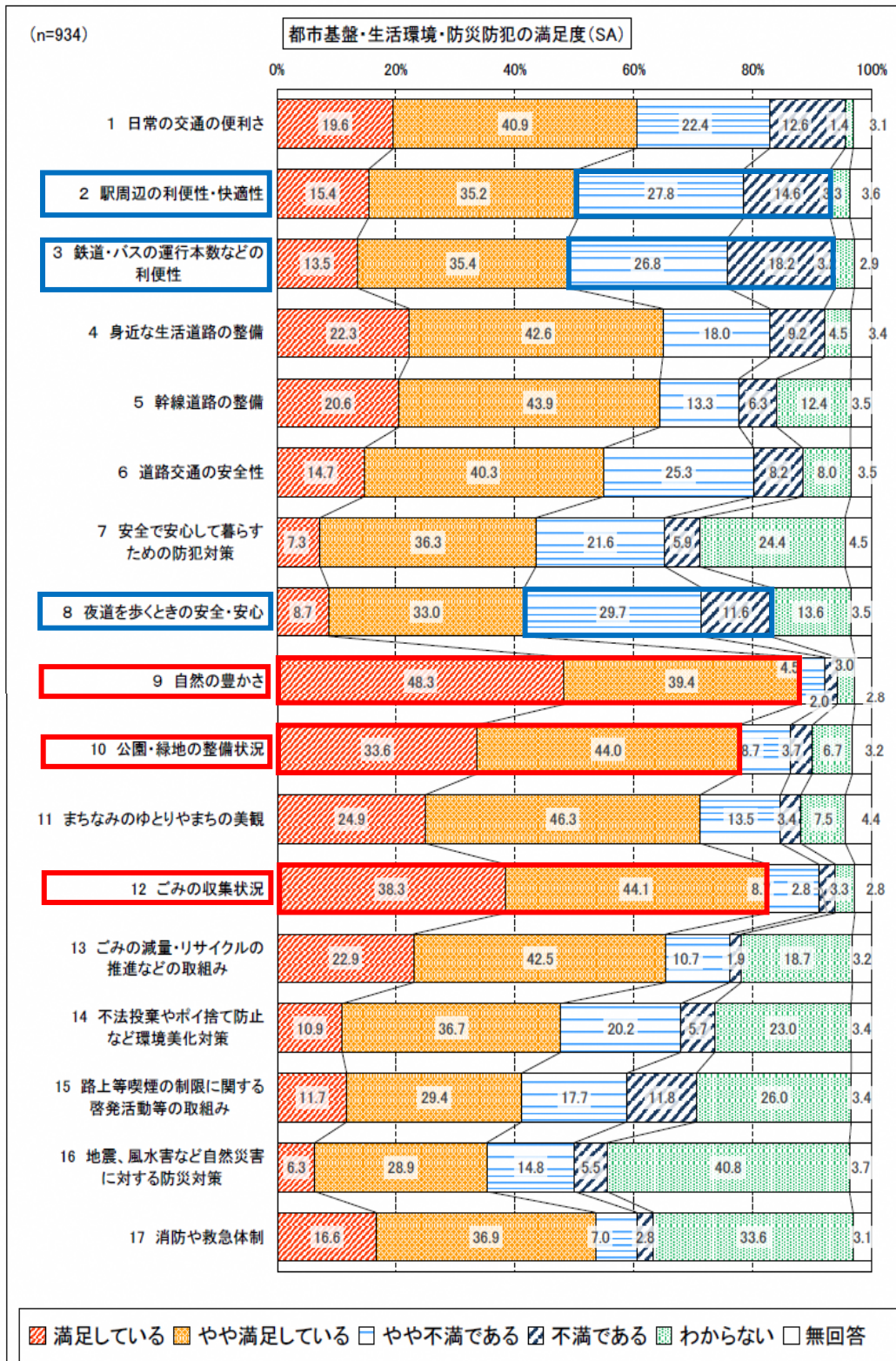


市内の開発動向図



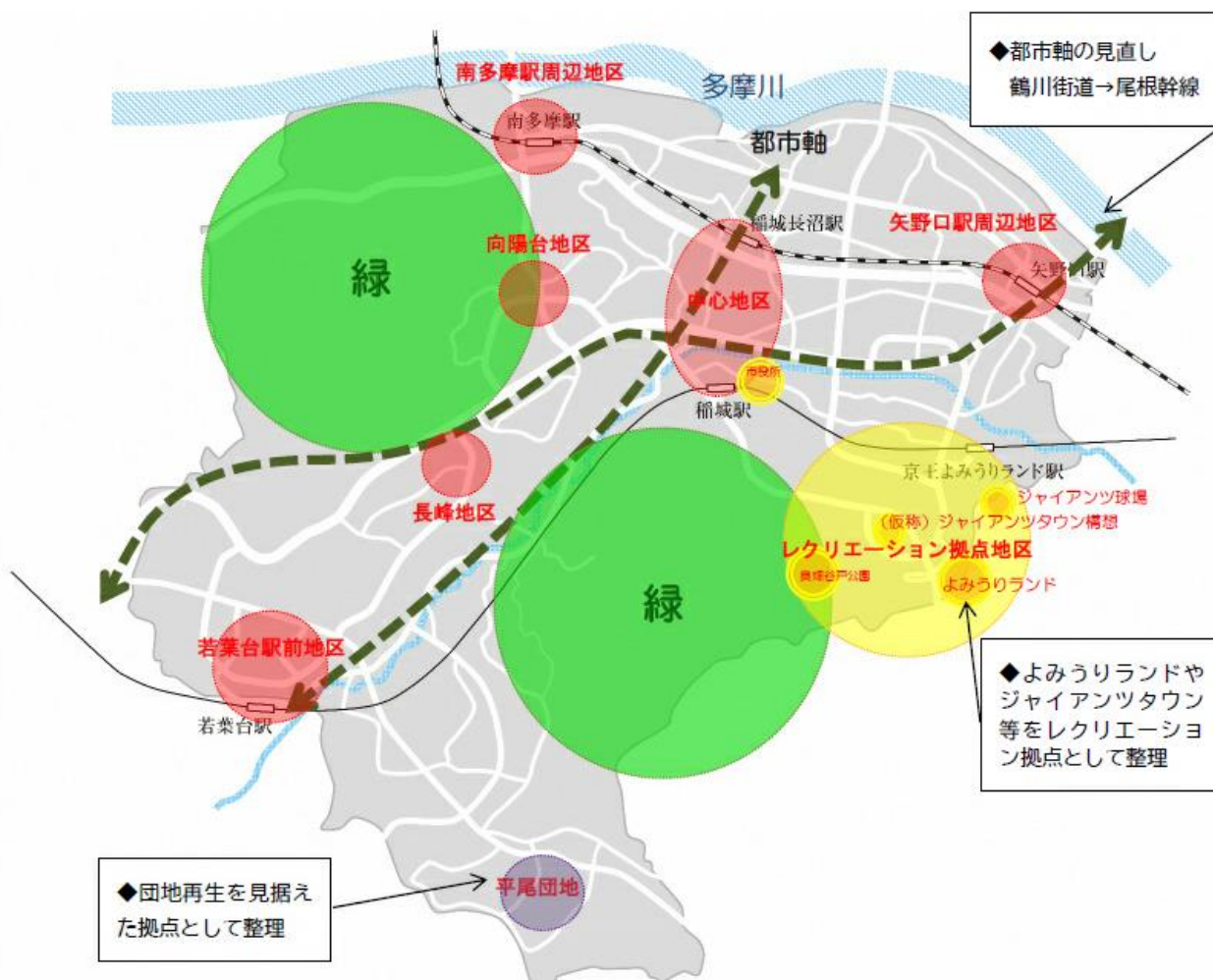
第五次稲城市長期総合計画 市民意識調査 結果報告書（令和元年度）



第五次稲城市長期総合計画 ～基本構想～

令和元年に実施した市民意識調査では、世代を問わず、稲城市で住み続けたいと思っている人の割合が8割を超え、定住意向が強く出ていました。

その理由としては、自然環境の良さや道路等の生活環境の良さ、買い物等の便利さ、人間関係の良さ等が挙げられています。今後も、市民が世代交代しながら定住できる、『ほどよく田舎 ほどよく都会 なまち』を目指してまちづくりを行っていきます。



施策の大綱

IV 都市基盤整備・消防・防災～安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち 稲城

- 安心して暮らせるまちづくり
(計画的で適切な土地利用の推進、市街地の整備、市街地の再生)
- 便利で快適な生活環境の整備
(道路環境の向上、交通環境の向上、衛生環境の向上、総合的な水害対策の推進)
- 安全で安心な暮らしを守る対策
(消防体制の充実、救急医療体制の充実、地域防災活動の推進)

第五次稲城市長期総合計画 ～基本的な視点

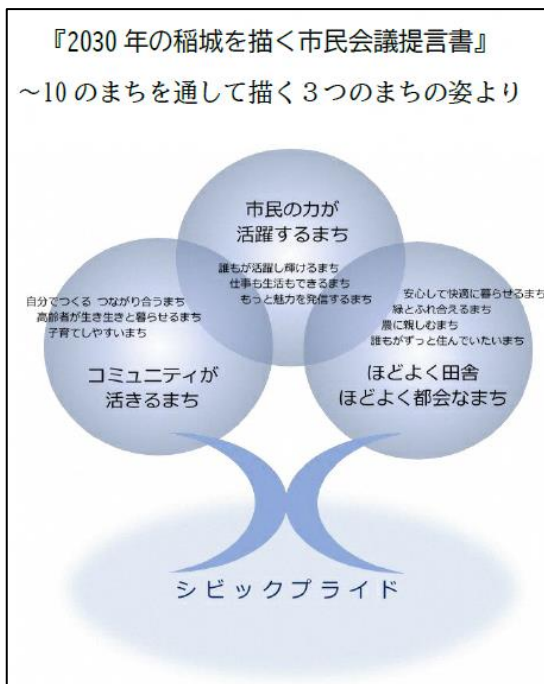
（第1の視点）市民の力が活躍するまちを目指して

自分達が住むこのまちに自ら関わりこのまちを良くしていこうという意識、自分達がこのまちを形作っているという誇り、こうした『シビックプライド』を持つ市民の力が、まちづくりの中に生きるよう、市では施策を展開していきます。

（第2の視点）SDGs（持続可能な開発目標）

稲城市のまちづくりの基本的な理念と、「だれ一人として取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現というSDGs*1の理念とは、目指すべき方向性が一致しています。

SDGsのゴール時点と同じく目標年次を2030年と定める第五次稲城市長期総合計画においては、持続可能なまちづくりを推進し、同時に、その実現を通してSDGsの達成を目指します。



（第3の視点）中間点としての2030年

2040年までの稲城市の人口推移は増加が見込まれているものも、東京都や近隣自治体の多くで減少すると推計されています。少ない労働力を地域で分かち合い、社会を維持していくためには、稲城市も少ない職員数で持続的に安定した市民サービスを提供できる体制を、現時点から2040年に向けて段階的に整備していく必要があります。